

みどりの 東北

MIDORI NO TOHOKU



Vol.
182

東北森林管理局

奥入瀬溪流 (青森県)

特集

令和元年度(平成31年度)東北森林管理局 重点取組事項 [企画調整課]

CONTENTS

■美しい森林づくり

国民参加の森林づくり支援について

「平泉古事の森」木の文化を支える森づくり…………… [岩手南部森林管理署]

■我が署の名所

桑ノ木台湿原…………… [由利森林管理署]





令和元年度（平成31年度） 東北森林管理局 重点取組事項

企画調整課

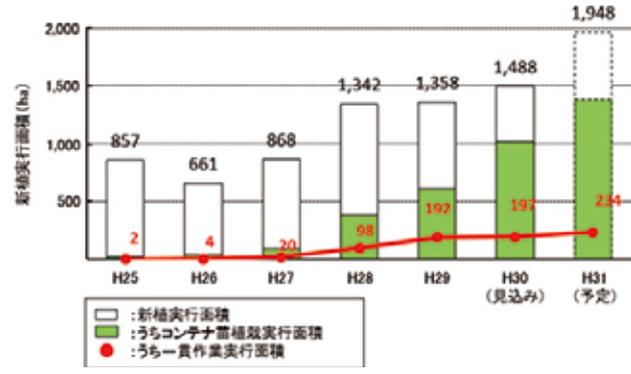
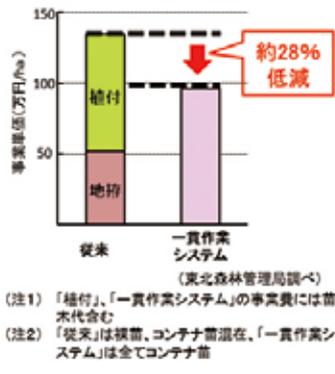
東北森林管理局は、国民のみならずの森林である国有林の管理経営を通じて、「林業の公益的機能の発揮と林業の成長産業化」「山村地域における地方創生への貢献」「地域の安全・安心を確保する治山事業の推進」といった役割を確実に果たされるよう、関係者の皆様との連携を図りつつ、全力を挙げて取り組んで参ります。

4月19日に公表しました重点取組事項の具体的な内容は次のとおりです。

1 森林の公益的機能の発揮と林業の成長産業化

森林の公益的機能を発揮させつつ林業の成長産業化を実現するため、林業の低コスト化、木材の安定供給及び多様で健全な森林づくりに民有林と連携して取り組めます。

(1) 「森林経営管理制度」の定着に向けた取組の推進



鉄網スラグの現地検討会（岩手県）

○一貫作業システム、画一性を排した保育作業、効率的な木材生産手法など林業の低コスト化に向けた技術の開発・実証に率先して取り組みます。
・コンテナ苗を活用しつつ、伐採と植栽を連続的に実施する「一貫作業システム」を推進します。
・時期を選ばずに簡単に植付が可能なコンテナ苗の積極的な使用・普及に努めます。
・植栽本数を縮減し、植栽・保育コストを低減します。

・現地の状況に応じて下列を見合わせるなど、低コスト化を図ります。
・効率的に森林施業を行うため、林道等の路網整備を推進します。

また、路網の維持管理コストの縮減に向け、鉄網スラグ※1も活用します。
・安全かつ効率的な伐採が可能な列状間伐を推進します。

・林業の低コスト化に向け、造林初期コストを低減する技術開発とともに、新たにICTなどを活用した先端技術の実証的な検証に取り組みます。
○技術の普及・定着に取り組みます。

一貫作業システムなどの低コスト化技術の民有林への普及・定着に向け、各署等で国有林の現場を活用した現地検討会を積極的に開催します。
○地域の森林・林業を担う人材育成に協力します。

森林総合監理士など地域の森林・林業のリーダーとして活躍できる職員の育成のみならず、局署の研修等への市町村職員の受入れなどにより、民有林の技術者の育成を支援します。

また、林業大学校や林業関係高校への国有林のフィールド提供等を通

じて林業の担い手育成を支援します。
○**民有林と連携した施業を推進します。**

民有林と連携して森林整備推進協定を締結した上で森林共同施業団地を設定し、路網や土場などの共同利用や施業集約化による民有林での施業の低コスト化に協力します。

また、国有林に隣接・介入する民有林と「公益的機能維持増進協定」を締結し、国有林の整備と合わせて一体的に森林整備等を行います。

(2) 多様で健全な

森林づくりの推進

○**生物多様性保全と森林資源の循環利用を両立する森林整備を推進します。**

人工林のうち効率的な施業が可能な林分では、主伐・再造林による森林資源の循環利用を推進し、自然条件等により他の森林状態が適していると判断される林分では、間伐を繰り返して針広混交林等に誘導します。

主伐・再造林に当たっては、猛禽類の狩り場の創出など生物多様性保全にも資する施業を行います。

へ南三陸地域イヌワシ生息環境再生プロジェクト

かつてイヌワシのつがいが確認されていた宮城県南三陸地域において、民有林関係者や自然保護団体と連携して、イヌワシの狩り場となる伐採地・造林地を継続的に創出すること

により、林業の成長産業化とイヌワシの生息環境の復元を両立することを目指します。



南三陸町の町鳥 イヌワシ



イヌワシの狩り場となる伐採地（イメージ）

へ青森ヒバ林復元プロジェクト

かつてヒバ林が成立していた青森県津軽・下北半島のスギ等の人工林において、地域の関係者と連携して、主に天然力を活用した人工林からヒバ林への誘導に取り組みます。

○**健全な森林を維持する取組を推進します。**

ニホンジカなど野生鳥獣や松くい虫、ナラ枯れなどによる森林被害が拡大しており、森林の公益的機能への影響が懸念されることから、地域関係者と連携して、森林被害の拡大を防ぐための対策に取り組みます。

(3) 木材供給による

林業の成長産業化への貢献

○**木材の安定供給に取り組みます。**

適切な森林整備等の結果得られた木材を、国有林材の安定供給システム販売^{※2}等を通じて計画的、安定的に供給します。

○**民有林から安定供給が期待しにくい林産物を供給します。**

青森ヒバ、高齢級秋田杉、広葉樹など地域の木材産業から需要があるものの、民有林から安定供給が期待しにくい木材を計画的、安定的に供給します。



上：ニホンジカ被害対策現地検討会（岩手県）



下：囲いわなによるシカ捕獲（岩手県）

○新たな木材需要の創出に資する木材生産に取り組みます。

広葉樹（一般材）の有効利用と安定供給に向けて採材検討会を開催するとともに、販売拠点の整備に協力します。

また、2×4材^{※3}等に対応できる長さ5mのスギ丸太の生産・販売に取り組みます。



広葉樹採材検討会（秋田県）

2 山村地域における

地方創生への貢献

山村地域における地方創生に貢献するため、国有林野の観光資源としての活用や地域の木の文化を支える活動への協力などに取り組みます。

(1) 国有林の観光資源としての活用の推進

○国有林の観光資源としての活用を推進します。

「レクリエーションの森」のうち、特に魅力的な自然景観を有する等の

理由により選定したモデル箇所（「日本美しの森 お薦め国有林」、東北森林管理局管内11箇所）において、多言語による情報発信、重点的な環境整備等を行い、国有林の観光資源としての活用を推進します。

(2) 地域の木の文化を支える活動への協力

○木の文化を支えるための取り組みに協力します。

地域の木の文化を支えるため、大館曲げわっぱ、秋田杉桶樽など森林資源を活用した伝統工芸品に必要な原料を安定供給します。

また、漆生産者等とのウルシの分収造林設定、曲げわっぱに適する人工林スギの選定技術の開発など森林資源を活用した伝統産業の振興や木の文化を継承する取組に協力します。



上：浄法寺塗
下：分収造林内での漆掻き

3 地域の安全・安心を

確保する治山事業の推進

豪雨災害等、激甚化する災害に対する山地防災力を強化するため、特に、重要インフラ緊急点検等により早急に治山対策が必要であることが判明した地域について、荒廃山地の復旧・予防対策、総合的な流木対策の強化等の治山対策を推進します。

○天皇陛下御在位三十年記念分収造林

皇太子殿下御即位記念分収造林

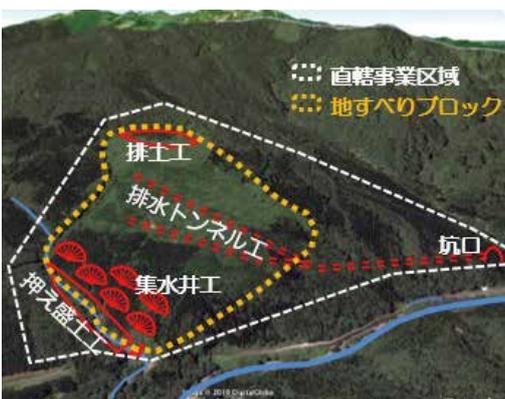
天皇陛下の御在位三十年及び皇太子殿下の御即位に伴う慶祝行事等の一環として、国民参加による森林づくりの促進を図るとともに、国有林野が所在する地域の振興に向け、国有林野において記念分収造林を実施します。

(1) 山地防災力の強化に向けた治山事業の推進

○荒廃山地の復旧・予防対策のため治山事業を推進します。

地域の安全・安心の確保に向けて、集中豪雨等に対する山地防災力を高めるため、荒廃山地の重点的な復旧に取り組むとともに、予防対策により事前防災・減災対策を推進します。<志戸前川地区直轄地すべり防止事業（岩手県栗石町）>

志戸前川流域では、平成25年8月の集中豪雨により、山腹荒廃や土石流が発生し下流域の住宅や公共施設



直轄事業区域（引用：Google Earth）

等に大きな影響を及ぼしたほか、流域内に滑動の危険性の高い地すべり地が確認されました。

今後の豪雨等により大規模な地滑りが発生するおそれがあることから、岩手県からの要請を受けて、令和元年度から雫石町の民有林内において、国直轄による地すべり防止対策を実施します。

○山地防災力を高めるため治山施設等の緊急対策を実施します。

重要インフラ緊急点検の結果により判明した、早急に治山対策が必要な山地災害危険地区等において、治山施設の設定等による荒廃山地や荒廃危険山地の復旧・予防対策等を推進します。

昨今の流木災害の発生を受けて実施した緊急点検により選定した、早急に流木対策が必要な森林等において、流木捕捉式治山ダム等の設置、流木化する可能性の高い流路部の立木の伐採等の流木対策を、より一層加速化します。

○山地災害が発生した場合、民有林と連携して迅速に対応します。

集中豪雨等により山地災害が発生した場合には、速やかに職員の現地派遣やヘリコプターによる民国合同緊急調査を実施し、国有林のみならず地域の民有林を含め、被害状況を

迅速に把握します。

国有林においては、必要に応じて被災箇所への応急対策を実施するとともに、直ちに本格復旧に向けた詳細調査等を実施し、山地災害からの早期復旧に全力で取り組みます。



平成30年8月豪雨（山形県）の応急対策大型土のう設置

(2) 東日本大震災からの復興への貢献

○海岸防災林を復旧・再生します。

津波に強い海岸防災林とするため、地下水位から2〜3mの地盤高を確保する生育基盤盛土を造成後、防風柵を設置し、民間団体の協力を得ながら、クロマツ等を植栽しています。生育基盤盛土造成は平成30年度で完了しており、令和2年度末までの植栽完了に向けて全力で取り組みます。



宮城県山元地区の植栽状況（H30.8.1撮影）

〈民間団体と連携した海岸防災林の再生〉

「みどりのきずな」再生プロジェクト」として、民間団体と連携して植栽等に取り組んでおり、「社会貢献の森」の協定を締結の上、植栽等の活動に取り組んでいただいています。

平成24年度から平成30年度の7年間の公募で、延べ70団体が合計25.86haで植栽等の活動を行っています。令和元年度は、東松島市矢本西部地区で活動を希望する民間団体を公募する予定です。

○防潮堤を整備・復旧します。

高波、高潮等による後背地の浸水被害軽減のため、被害を受けた防潮堤の復旧や地盤沈下した箇所への防潮堤の整備など対策完了に向けて全力で取り組みます。

〈地元で発生したコンクリートがれきを使用したCSG防潮堤の建設〉

気仙沼市三島海岸では、地域住民との話し合いの結果、コンクリート殻や砕石類を使用したCSG堤※4により防潮堤を復旧することとし、令和元年度から建設します。

【用語集】

※1 鉄鋼スラグ

鉄鋼の製造過程で発生する副産物。時間とともに強度が向上するため、鉄鋼スラグを使用した路盤工は耐久性等に優れています。

※2 国有林材の安定供給システム販売

製材工場、合板工場等との間で木材の計画的な供給に関する協定を締結し、工場等へ安定的に木材を供給する販売方法。

※3 2×4材

枠組壁工法（通称…ツーバイフォー工法）に用いられる壁の骨組みとなる枠材で、主な規格としては厚さ2インチ×幅4インチ（一般に流通している寸法は、厚さ38mm×幅89mm）の角材。現在、この材は輸入材で占められています。

※4 CSG堤

建設場所の近傍にて簡単に手に入る材料（掘削土砂や岩屑等）を用い、セメントと水を加えて練り混ぜたCSG材により堤体を築造していくもので、元々ダム建設の技術として開発されたものです。

美しい森林づくり

国民参加の森林づくり支援について 「平泉古事の森」木の文化を 支える森づくり (奥州市衣川字月山国有林)

岩手南部森林管理署

当署管内には、有名な観光地でもある世界文化遺産「平泉」があります。

今回は、この平泉町に隣接する奥州市衣川の月山国有林内をフィールドにする「平泉古事の森育成事業」を紹介します。

「古事の森育成事業」とは、神社、仏閣、城郭、旧家などの歴史的木造建造物の修復に必要な大径材を育てる森づくりを通じて、地域の皆さんと日本の木の文化を支



事前授業の様子

えていく活動です。

当署管内では、世界遺産登録の2年前の平成21年9月に、その歴史的木造建造物の修復に必要な樹齢200年から400年の大径材を育てる超長期の森づくりを目標にして平泉古事の森育成協議会が発足し、地域の皆さんとともに、現在まで木の文化を支える森づくり活動を実施しています。

活動としては、平泉町、奥州市衣川の小学校4校とタッグを組



開会式

み、「木の大切さ」「木と平泉の文化」等について1時限の授業を実施し、その後フィールドを利用したヒバの植栽や保育活動を実施しています。

なぜ「ヒバ」を植栽と思う方も多いと思いますが、「平泉」を代表する国宝の中尊寺金色堂は、「青森ひば」で建築されており、月山国有林には、スギ、アカマツ、広葉樹と混交した樹齢150年から200年ほどのヒバ混交林約1.8haがあります。

にあることから、この森づくりの取り組みにおいて、神社、仏閣に使用される「青森ひば」を植栽し、平泉文化施設を守るため、将来の修理、修復の材料としてヒバの育成活動を行なっています。

こととしています。



丸太切り体験



草等の繁茂抑制に輪切を植栽したヒバ根元ハ



森林教室 (木の葉)



森林教室 (木の香り)



森のおはなし

— column —

それは「松くい虫」ではありません

森林総合研究所東北支所 中村 克典

1. はじめに

東北地方の各地で松くい虫被害からマツを守るたかひが続いています。松くい虫被害の正体は、マツノマダラカミキリによって運ばれるマツノザイセンチュウが原因で起こるマツの木の病気、すなわちマツ材線虫病ということになるのですが、マツノマダラカミキリなどの昆虫の加害で木が枯れると信じられていた時代のなごりで、「松くい虫」という呼び名が今も使われています。そのような経緯で、「松くい虫」という言葉が今日使われるときには、木が枯れる原因であるマツ材線虫病を指す場合と、病原体を運ぶマツノマダラカミキリを指す場合があることについて、まずはご理解下さい。

2. 松くい虫の木くず？！

松くい虫被害の侵入や拡大が心配されているマツ林を歩いていて、枯れ木の根元に大量の木くず（写真1）が積もっているのを見つけ「これは、松くい虫の被害では？」と驚かれたことはないでしょうか？確かに、松くい虫被害を引き起こすマツノマダラカミキリは枯れたマツの樹皮下を食い荒らして木くずを出します。しかし、それは樹幹から外部に大量に排出されるようなことはなく、形状的にも細長い繊維状のものが多く含まれていて



写真1：マツの木の根元で見つかった大量の木くず

（写真2）、写真1のものとは見た目が全然ちがいます。また、マツノマダラカミキリは枯れ木の中でも樹幹上部や太枝に多く生息し、根元のあたりにはほとんどいません。枯れたマツの根元の木くずは、マツノマダラカミキリが出したものではありません。



写真2：枯れたマツの樹皮下から現れたマツノマダラカミキリ幼虫とその木くず

3. 根元の木くずを出したのは

実は、枯れたマツの根元に木くずを大量に排出した「犯人」は、オオゾウムシです。成虫は体長が1

～3cmにもなる大型のゾウムシの仲間です（写真3）、幼虫は針葉樹、広葉樹の枯れ木の根元付近の湿った材を食べて穴を作ります（写真4）。このときにできた糞や食べかすを、穴の入り口を覆う樹皮の隙間から外界に排出するので、オオゾウムシ幼虫の住み着いた枯れ木の根元には大量の木くずがたまることになります。



写真3：オオゾウムシ成虫

オオゾウムシは日本中どこにでもいる普通の昆虫で、マツノマダラカミキリのように病原体を運んで木を枯らすようなことはしません。ただ、餌になるような伐倒木や枯れ木があると多数が穿孔して



写真4：マツの枯れ木の幹に作られた穿孔孔に潜んでいたオオゾウムシ幼虫

材を穴だらけにしてしまうことがあります。立木であれば折損、倒伏の原因になりますし、貯木場で発生すればせっかくの木材が台無しになってしまいます。また、オオゾウムシは松くい虫被害を発生させるわけではありませんが、枯れたマツの匂い成分を使った誘引器にはオオゾウムシの成虫がたくさん飛来しますし（と云いつつ、筆者はオオゾウムシ成虫が実際に飛んでいるところを目撃したことはないのですが）、松くい虫で枯れたマツにはよくオオゾウムシ幼虫が加害しています。松くい虫被害で発生する大量の枯れ木を利用して繁殖している虫、という見方ができそうです。

4. おわりに

このように見てくると、オオゾウムシは松くい虫被害とまったく無関係、と言うわけにはいかなくなります。つまり、オオゾウムシの繁殖を示す枯れたマツの根元の木くずは、「松くい虫」が出したものではありません。そのマツ林に松くい虫被害が広がっている可能性を示す指標にはなっているのです。



森と海を繋ぐ魚

—サクラマス—

藤里森林生態系保全センター 専門官 有本 実

東北地方の桜が満開を迎える頃、海からの遡上がピークを迎えるサクラマス。秋田の銘川・米代川①には毎年4月1日の解禁日以降、全国から多くの太公望が集結します。今回は、“幻の高級魚”と称されるサクラマスの興味深い生態をご紹介します。

サクラマスの産卵場所は、森の中を流れる河川の上流域です。秋に産み落とされた卵はその年の冬に孵化して、1～2年間川で生活します。その後エサの争奪戦に勝った個体（主に勝気な♂）はそのまま川に残留して『ヤマメ②』になり、負けた個体（主に内気な♀）は海に下って『サクラマス』になるのです。降海前には全身銀色に輝き、別種のように見えます③。

春先に大海原へ旅立った個体は、一冬を海域で過ごして見違えるほど巨大化した後、翌春の桜の開花時期に故郷の川に帰ってきます④。外見上はまるで銀白色のサケですが、④をさばいたところ身の色も赤味を帯びてサケそのものです⑤。海でオキアミなどの甲殻類を食べると、アス

タキサンチンという成分で身が赤くなることが知られており、サケもサクラマスも実は白身魚に分類されています。

春に母川回帰したサクラマス達は、上流域の自分が生まれた場所まで遡上して、10月頃にヤマメとペアを組み産卵して一生を終えます。産卵期には♂の体が薄紅の婚姻色に染まり⑥、その体色からサクラマスという名前が付けられた、という説もあります。因みに⑥は十和田湖畔に打ち上げられていたもので、湖沼を海に見立ててサクラマス化するヤマメも東北各地に生息しています。

サケと比べて淡水域で生活する期間の長いサクラマスにとって、河川環境はとても重要です。林野庁では国有林内を流れる溪流沿いの森は溪畔林として保存し、治山ダムに魚道を設置する・・・といった河川生態系の保全に取り組んでいます。令和の新時代を迎えた今、サクラマスが毎年変わらず日本の川に帰ってくる未来を願わずにはいられません。



①満開の桜と米代川



②川に残留する個体（20cm）



③降海前の個体（19cm）



④海から遡上した個体（68cm）



⑤サクラマスの身の色



⑥♂の婚姻色（37cm）

森林官からの手紙

森林鉄道の車窓から

岩手南部森林管理署遠野支署 附馬牛森林事務所 森林官 鈴木 研介

私の勤務する附馬牛森林事務所は、遠野市の北西部(附馬牛地区及び松崎地区)の約1万2千haの国有林を管轄しており、約150件の分収造林契約や共用林野の存在も含め、地域との根強い結びつきを保ち続けています。

木材生産が盛んであった昭和初期には、遠野市中心部の材木町の貯木場から、当管内の奥山まで総延長29kmの森林鉄道が敷設され、アカマツ、スギ、ヒノキ、ブナを運搬していました。かつての森林鉄道の軌跡に沿って管内を御案内しますので御同乗願います。

昭和の風情が残る材木町の官舎街を後に、貯木場跡地を出発。軌道は早瀬川を渡り、松崎地区を一路北へと向かいます。遠野郷八幡宮付近を過ぎると、一面に水田が広がり、残雪の美しい薬師岳(1645m)と早池峰山(1917m)が視界に入ります。



早池峰山(奥)と薬師岳(手前)

きます。早池峰山は、北上高地の最高峰で地域の厚い信仰を集める山です。小鳥瀬川を渡ると軌道は次第に山々に近づき、駒木集落の付近では、遠野市が日本一の生産面積を誇るホップ畑が現れます。また、遠野は古くからの馬産地であり、この集落には乗用馬の育成や調教等を行う施設で、本州唯一の乗用馬市場が開催される「遠野馬の里」があります。この付近からは、薬師岳を源流とする猿ヶ石川を左手に北西に

進み附馬牛地区に入り、右手には「遠野ふるさと村」が現れます。この施設では、市内各所から数軒の「曲り家」を移築・保全して山里の集落を再現しており、江戸時代にタイムスリップした気分を楽しめます。

ふるさと村を過ぎると、当事務所の所在する上柳(じょうやなぎ)に到着します。途中下車をして地元の方の話や、ゆつくり走る列車に飛び乗り、遠野の町へ行ったことがあると笑顔で語ってくれました。上柳は、附馬牛地区の中心地で、地区センターや小学校などの公共施設が集まっています。毎年春には、附馬牛に新しく赴任した方々が地域に早く馴染めるよう、地区の方が総出で「なじむ会」という歓迎会を開いてくれます。私も温かく歓迎してもらい感激しました。



附馬牛の春

上柳を出発し、飼育されている牛や馬を眺めながら、蛇行する猿ヶ石川に沿って北進すると、新緑や紅葉が美しい「重湍溪(ちゅうたんけい)」という巨大な花崗岩が階段状に浸食された渓谷を縫うように走り、小出集落を経て、最上流の大出集落に到

着します。大出の早池峯神社の神門から社殿を拝すると、その遙か延長線上には早池峰山山頂の奥宮があり、その真上には北極星が輝いてるそうです。毎年7月に斎行される例大祭では、私も神事に参列し、昨年は神輿の担ぎ手も務めました。



晩秋の重湍溪

大出から先は、拡大造林により薬師岳の中腹まで広がったスギ・カラマツの造林地と、それらを格子状に囲んでいる主にブナから成る天然林の保護樹帯を望みながら一本桐国有林の奥まで軌道は延びていきました。森林鉄道は、国有林の奥山で伐採された木材を満載し、材木町貯木場(昭和23年まで)や上柳の水中貯木場(昭和35年頃まで)との間を往復していました。森林軌道は、トラック輸送にその座を譲り廃止になりましたが、附馬牛地区は地区面積の実に59%、11,931haを国有林が占めており、山仕事や多様な林産物の利用等を通じて、地域の人々の暮らしは今も国有林と密接に関わっています。

近年、地域との付き合いが少なくなっているなかで、昔と変わらぬ深いつながりを保っている当事務所の森林官としての勤務は得難い経験であり、私自身も様々な場面地域の人々に支えられて仕事をしています。このような地域との関係性こそが遠野支署ひいては国有林を支え続けてくれているのだと思っています。私も、地域の人々から多くを学んでいくとともに、森林官として、かつての森林鉄道のように遠野支署と地域をつないで、地域の暮らしに不可欠な森林事務所を目指したいと思えます。



湿原内の木道



ワタスゲ



桑ノ木台湿原と残雪の鳥海山



レンゲツツジ



◎交通アクセス

羽後本荘駅より車で約50分
日本海東北自動車道本荘ICより車で約45分
矢島駅から車で約35分
湿原の約3.3km手前の林道入口付近にゲートが設置されているため、一般車両の乗り入れはできません。
なお、湿原入口まで有料シャトルバスを運行している期間があります。

由利森林管理署

〒015-0885 秋田県由利本荘市水林439
TEL 0184-22-1076 FAX 0184-22-2274

追伸…以前このコーナーの前身「我が署の隠れた名所」で紹介した際には立ち入り禁止期間中であつたため、今回改めてご紹介させていただきました。

秋田県と山形県の県境に聳える鳥海山の北麓、標高約700m付近にある桑ノ木台湿原は、レクリエーションの森(自然観察教育林)にも指定され、ミスバショウ、ミツガシワ、ノナシヨウブ、サワギキョウ、カキラン、トキソウ、モウセンゴケ等の植生も多く、自然観察の場として格好の地となっています。特に5月下旬頃から6月上旬頃には、朱色が鮮やかなレンゲツツジや白くて可憐な綿帽子のワタスゲ等の花々と、残雪を有している鳥海山との共演を楽しむことができます。しかし、この絶景が新聞や雑誌、インターネット等で広く紹介されたこともあり、入り込み者が急増し貴重な湿原が踏圧等によつて荒廃する現状にあつたため、10年ほど前には湿原への立ち入りを一時禁止するなどの緊急保護対策を実施してきました。現在は、木道等の施設整備を実施したことに加え、桑ノ木台湿原の生態系をより望ましい形で後世に引き継ぐためのモニタリング調査も継続しつつ、湿原の保全管理を図りながら一般開放しています。みなさんも是非一度、湿原に整備された木道を歩きながら、小鳥の囀りと多彩な花々に癒やされてみてはいかがでしょうか。

我が署の名所

「桑ノ木台湿原」 くわのきだいしつげん

秋田県由利本荘市矢島町城内 由利森林管理署

